I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol.7
Max Roach【マックス・ローチ】
～モダン・ジャズ・スタイルを完成させた天才ドラマー～

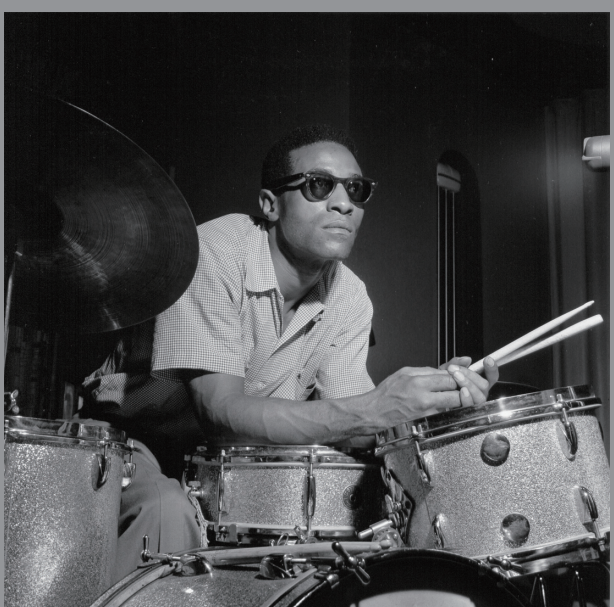

Photo by Francis Wolff (c) Mosaic Images

Profile

1924 年 1 月 10 日米ノースカロライナ州ニューランド生まれ。4 歳の頃にニューヨーク州ブルックリンに移住。10 歳の時にゴスペル・グループでドラマーとしての活動を開始し、ローカル・バンドで演奏する傍ら、シドニー・カトレットやケニー・クラークに影響を受けながら、ハーレムの「ミントンハウス」などのジャム・セッションで腕を磨く。43 年には、ケニー・クラークの後任として加入したコールマン・ホーキンスのグループでレコード・デビューを飾り、その後、ディジー・ガレスピーのコンボに参加。44~45 年にはベニー・カーターのツアーに参加。47~49 年はチャーリー・パーカー・クインテットのレギュラー・ドラマーとして活躍。52 年に JATP に参加し、54 年には天才トランペッターと称されたクリフォード・ブラウンと共に双頭バンド“ブラウン～ローチ・クインテット”を結成し絶賛を浴びるが、56 年にブラウニーとピアノのリッチー・バウエルの交通事故死によりクインテットを解散。その後は、ケニー・ドーハム、ドナルド・バード、フレディ・ハバード等を自身のコンボに加えて活動を続けた。プライベートでは、62 年に歌手のアビー・リンカーンと結婚。64 年 3 月には、“四大ドラマーの競演 (DRUM BATTLE)”と題するコンサートで、シェリー・マン、フィリー・ジョー・ジョーンズ、ロイ・ヘインズ、ハワード・マギー、チャーリー・マリアーノ、秋吉敏子、リロイ・ヴィネガー等のメンバーと来日を果たす。72 年にパーカッションによるアンサンブル“ウンブーム”を結成。その後も、様々な活動を続けながら、マサチューセッツ大学の教授を務めるなど教育の世界にも力を注ぎ、また、反アパルトヘイトなどの政治活動にも参加するなど、政治色の強い作品でも話題を呼んだ。モダン・ジャズ・ドラムの大御所として、82 歳になった今も健在。

MR's Great Album

“チャーリー・パーカー・クインテット”での名演をはじめ、モダン・ジャズ・ドラムのスタイルを確立した偉大なるドラマーのマックス・ローチだが、バンド・リーダーとしての資質にも注目して欲しい！

50 年代を代表するハード・バップの名盤

Clifford Brown and Max Roach
Clifford Brown and Max Roach
(ユニバーサル:UCCU-5031)

Clifford Brown (tp), Max Roach (ds), Harold Land (ts), Richie Powell (p), George Morrow (b)

1. Delilah 2. The Blues Walk 3. Daahoud 4. Joy Spring
5. Jordu 6. What Am I Here For? 7. Joy Spring (Alternate Take)
8. Daahoud (Alternate Take)

1954 年にマックスと天才トランペッター、クリフォード・ブラウンが結成した双頭バンドが、54 年 8 月（LA）と 55 年 2 月（NY）の 2 回に分けて行った初スタジオ・セッションの模様を収めた作品。ブラウニー作の名曲「ジョイ・スプリング」に、マックスのドラム・ソロが炸裂するバド・パウエル作の「パリジャン・ソロウフェア」など名演がズラリ。「ジョードゥ」は、『笑っていいとも』の「ちょい悪オヤジコンテスト」のコーナーのテーマ曲でも話題となったデューク・ジョーダン作曲のナンバーだ。ジャケットに写るマックスの満面の笑みがこのグループに対する自信を窺わせる。まさに伝説の幕開けを告げるハード・バップの名盤だ！

悲劇を乗り越えたマックスの入魂の一枚！

Max Roach + 4
Max Roach
(ユニバーサル:UCCU-9299)

Max Roach (ds), Kenny Dorham (tp), Sonny Rollins (ts), Ray Bryant (p), George Morrow (b)

1. Ezz-thetic 2. Dr. Free-Zee 3. Just One Of Those Things
4. Mr. X 5. Body And Soul 6. Woodyn' You

1956 年 6 月、クリフォード・ブラウン（tp）と同乗のリッチー・バウエル（p）の事故死により終焉を余儀なくされた“ブラウン～ローチ・クインテット”。その悲劇から 3 ヶ月…深い悲しみを乗り越え、同クインテットが誇ったハード・バップ魂を継承すべく、マックスが再起をかけて挑んだ作品。亡きメンバーに代わり、ケニー・ドーハム（tp）とレイ・ブライアント（p）が参加。中でも、ブラウニーの死の直前に『サキソフォン・コロッサス』を吹き込み、本作の録音がその次作にあたるソニー・ロリンズの豪快なテナーが印象深いが、天国に旅立ったブラウニーとリッチーに届けとばかりにスイングしまくるマックスのドラムも殊更胸を打つ。

偉大なるドラマー＆リーダー、マックス・ローチの主張！

Drums Unlimited
Max Roach
(ワーナーミュージック・ジャパン:WPCR-25113)

Max Roach (ds), James Spaulding (as), Freddie Hubbard (tp), Ronnie Mathews (p), Jymie Merritt (b), Roland Alexander (ss)

1. The Drum Also Waltzes 2. Nommo 3. Drums Unlimited
4. St. Louis Blues 5. For Big Sid 6. In The Red (A Xmas Carol)

マックスの顔のアップとスネアを叩くショットが印象的なジャケット。何処となくブライアン・ブレイド（ds）の風貌とダブるが、フリー・ジャズ全盛期におけるマックスの変幻自在のドラム・テクをフィーチャーした名作。「フォー・ビッグ・シド」は、身長 2m を超えるインディアナ州出身のドラマーで、マックスに多大な影響を与えたシドニー・カトレット（1910~1951）に捧げたナンバーで、マックスがソロで挑んだ一曲。その他、「ドラム・オルソー・ワルツ」「限りなきドラム」の 2 曲もマックスのドラム・ソロによる演奏だが、ローランド・アレクサンダー（ss）を加えた「セントルイス・ブルース」なども秀逸だ。録音は 1966 年。

マックス＆マイルス

嘗て、マイルス・デイビスとは兄弟のような間柄だったマックス・ローチだが、この 2 人にまつわる面白いエピソードがある。（以下、『マイルス・デイビス自叙伝I』（宝島社文庫）P286 より引用）「マックスが、バド・パウエルの弟のリッチーのピアノ、ハロルド・ランドのテナー、ジョージ・モロウのベースという、クリフォードの新しいグループで来た時、『ベイカーズ』でやるから、オレにも入れと言った。で、どういうわけか、オレがトランペットを茶色い紙袋に入れて、雨の中をよろよろ歩いて入っていくと、そのままステージに上がってくマイ・ファニー・バレンタイン＞を吹きはじめたっていう、とんでもない話になっている。それだけじゃない。ブラウニーがオレを哀れんで、バンドが演奏していた曲を途中でストップさせ、そのままオレに好きに吹かせて、吹き終ったオレは、またよろよろと雨の中に出ていったという…」。これはマイルスがドラッグに依存していた 1953~54 年頃のデトロイトでの一幕だが、この文には続きがあり、マイルスがそんなことが「あるわけがない」という理由と真相を語っているので、興味があれば一読して欲しい。そして、「マックスにそんな姿は絶対に見せない」とのマイルスのことばが 2 人の関係を物語っている。

アビー・リンカーン

1962 年にマックス・ローチと結婚したジャズ歌手のアビー・リンカーン。元々、ガビー・リーの名で歌っていたが、56 年にアビー・リンカーンに改名。音楽以外にも女優としても活躍。マックス・ローチとの共演では、政治的色の強いアルバム『ウイ・インシスト』（1960）などが有名だが、彼女自身の作品では『ザッツ・ヒム！』（1957）がお薦め！

日活映画「黒い太陽」

1964 年 3 月、『四大ドラマーの競演 (DRUM BATTLE)』で、奥さんのアビー・リンカーンを連れ添って来日を果たしたマックス・ローチ。実は、この来日時に夫婦揃って日本映画の音楽を担当している。河野典生著『腐ったオリーブ』を監督・蔵原惟繕 / 脚本・山田信夫で映画化した『黒い太陽』だ。黒人に憧れ、ジャズにとり付かれた若者＝明（川地民夫）を主人公に、全篇に渡ってモダン・ジャズが流れる 1964 年の日活映画だが、黛敏郎と共にマックス・ローチが音楽を担当。オープニングでいきなりマックス・ローチの演奏シーンが流れ、アビー・リンカーンの歌声が重なる。出演陣には、川地民夫の他、チコ・ローランド、藤竜也、新田昌玄、千代侑子、山田禅二、大滝秀治等が名を連ねる。機会があれば是非見て欲しい。